

References

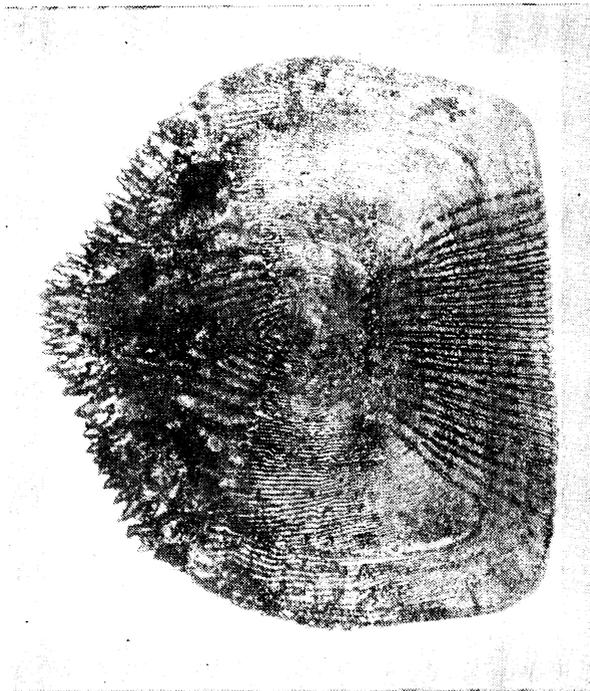
1. IMANISHI, K. 1949 : Logics in organic societies. The Mainichi Press. (In Japanese).
2. NAKAI, J. 1952 : Outline of the natural foods of salmons and plankton in the north Pacific. Suisankai, No. 815, pp. 60-65. (In Japanese).
3. KOMATSU, Y. 1951 : Biological statistics. 3rd ed., Asakura Syoten, Tokyo. (In Japanese)

雑 録

カムルチーの鱗

カムルチー *Channa argus* (CANTOR) の鱗は円鱗とみなされている。例えば岡田・松原の日本産魚類検索の p. 143 (1938) によつても、カムルチー科 Ophicephalidae の魚は「すべて円鱗」と明記してあり、又 MATSUI, I. は Jour. Shimonoseki Coll. Fish., vol. 1, No. 1, p. 44 (1949) において、満洲産の本種の 12.5 cm の小形魚から 80 cm に産する大形魚まで検べているにもかかわらず、円鱗か櫛鱗か？ については一語も記載されていない。

筆者は 41 cm の体側鱗を検したところ、この鱗の後縁に、ちょうどサバ属 *Scomber* の鱗に見られるような (小林, 魚雑、第一巻、p. 180, Fig. 150) 顕著な突起のあることを見出した。櫛鱗は発生学的にはすべて円鱗から出発するのであるが、こんなに後れて突起の発生を見ることは珍しいことである。



体長 41 cm のカムルチー *Channa argus* (CANTOR) の鱗 (体側中央部よりとる)。

(小林久雄)